

<自転車の安全利用促進委員会レポート>
青森県教育委員会主催
『令和8年度学校安全指導者研修会』にて
「自転車通学指導セミナー」を開催

自転車の正しい利用方法や安全安心な自転車の選び方、メンテナンスの重要性を啓発する「自転車の安全利用促進委員会」と「一般社団法人自転車協会」は、青森県総合学校教育センターで行われた『令和8年度学校安全指導者研修会』（主催：青森県教育委員会）にて、自転車通学指導セミナーを実施し、青森県内の高等学校及び特別支援学校の教職員等約50名が参加されました。

講師の遠藤まさ子（自転車の安全利用促進委員会メンバー／自転車ジャーナリスト）は、自転車事故の傾向や特徴、事故データに触れ、安全な自転車利用に必要な要素を説明しました。

高校生の自転車事故状況については、加害者数も多く、16歳が突出していることから、継続的な指導の重要性について説明しました。

また、青森県の高校生の通学時における自転車事故件数については、事故件数は微減しており、加害者（第一当事者）となる割合も低いことから、他県と比較しても事故に巻き込まれないよう指導していくことが有効であると説明しました。

自転車通学の指導ポイントとして、「年1回のイベントにしないことが重要です。行動変容を促すには、継続的な自転車通学指導が必要です」と説明し、年間の自転車教育について提案しました。

また、「自転車が自動車ドライバーからどのように見えているかを理解することが、より注意喚起の効果を高めます」と説明し、自転車側からだけでなく、自動車ドライバーの視点から危険を考えることの重要性を伝えました。

さらに、2026年4月から施行された16歳以上を対象とする「青切符制度」についても解説しました。特に、信号無視やながらスマホなどの違反行為の危険性に触れ、自転車関連事故の発生状況を示すとともに、事故リスクを具体的に体感できる教材を紹介しました。

加えて、自転車そのものの安全性についても触れ、「安全基準を満たしたBAAマーク付きの自転車を選ぶことや、日常的なメンテナンスを徹底することで、事故を未然に防ぐことができます」と述べました。

交通ルールだけでなく、自転車の車体の安全性についても改めて理解いただくことができ、自転車利用の安全教育について考える機会となりました。

【参加した交通安全指導員の感想】

- ・自転車事故では、加害者になる可能性もあることを生徒に自覚させるよう、指導していくことが重要だと思いました。
- ・BAAマーク付きの自転車を選ぶことや自転車点検、ヘルメットの着用など、交通ルールとあわせて、今後も継続して指導していきたいと思います。



■参考資料

《講師略歴》

遠藤 まさ子

自転車の安全利用促進委員会メンバー／自転車ジャーナリスト

自転車業界新聞の記者や自転車専門誌の編集などを経てフリーランスへ転向。自転車・育児用品を中心に取材を行い各誌に寄稿。自転車の中でも子ども乗せ自転車、幼児車、電動アシスト自転車を得意とし、各種メディアで自転車の利活用、安全指導等解説を行う。



《自転車の安全利用促進委員会》

自転車の安全利用促進委員会とは、一般社団法人自転車協会の協力を受け、安全安心な自転車利用のための啓発活動を行う団体です。自転車の利用者の方々に快適な自転車生活を送って頂くため、購入時に知っておくべき自転車の選び方から購入後のメンテナンス、正しいルール・マナーなどの情報発信を行っています。また、活動の一環として教職員や学生を対象とした、自転車通学指導セミナーも全国で開催しています。

<https://jitenasha-anzen.com/>

《BAA マーク》

BAA マークは、一般社団法人自転車協会が定める自転車安全基準に適合した自転車に貼られています。自転車安全基準には全部で約90項目の検査項目があり、ブレーキ制動性能、フレーム・駆動部の強度、ライトの光度、リフレクターの反射性能などの検査に合格する必要があります。

